

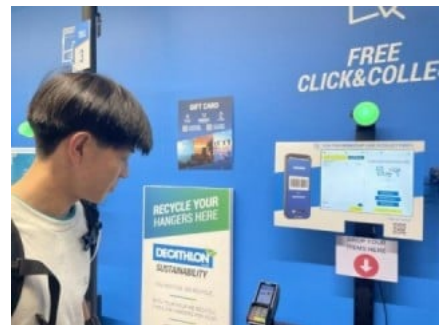
## 8月3日（木）フィールドワーク&ドラマレッスン

この日の午前中は、フィールドワークでした。最終日のプレゼンに向け、それぞれのテーマによって、現地校の教員にインタビューをしたり、お店のスタッフや専門家に質問をしたり、スーパーマーケットや保育園を見学したりして、取材を行います。



「公共交通」、「街並み」、「バリアフリー」というテーマを設定した生徒たちは、近くのBourton-on-the-Water教区のAmanda Davis議員と面会しました。Amandaさんはこの教区の選挙で選ばれた議員で、この地域に関する重要な事柄を議論・決定されています。

「公共交通」をテーマに設定した生徒は、この地域の交通事情を尋ねました。Amandaさんは、特に電車のアクセスが不便だと教えてくださいました。コッツウォルズ地方には電車がほとんど走っておらず、切符は前もって買っておかないととても高いので、バスに頼る人が多いのですが、ロンドンのような大都市に比べると、バスはかなり早い時間に運行を終えてしまいます。そのことから「地元議会は車を持たない人たちを助けるために、2つの新しいコミュニティ・バス路線を走らせ始めた」と、具体的なお話を聞かせてくださいました。



「街並み」をテーマに設定した生徒は、日本では伝統的に木造の家が多いのに対し、なぜイギリスでは石造りの家が多いのかと質問しました。Amandaさんは、石造りの家は冬でも暖かく、コッツウォルズでは石が簡単に手に入るからだと教えてくださいました。この地域のほとんどの家は、蜂蜜色が特徴的なコッツウォルズ・ストーンでできています。さらに、家を建てる時に何か決まりはあるのかと聞きました。Amandaさんは、国と地方の両方の規制があると教えてくださいました。特にBourton-on-the-Waterは風光明媚な村なので、新しい家でも古い家との調和を保つためにコッツウォルズ・ストーンで建てられるそうです。



「バリアフリー」をテーマに設定した生徒は、地域のバリアフリーについて質問しました。Amandaさんによると、2010年に「平等法」が制定された後、地元の車椅子ユーザーによる監査が行われたそうです。その結果、車椅子に優しくない場所が多く見つかったため、自治体が是正に努めているとのことでした。インタビューの後は、高齢者や障害者向けの移動用具を販売する地元の店を訪れました。自動チェアが最も興味深かったようで、店員さんに手伝ってもらいながらいくつか試していました。



「子育て環境」と「玩具」をテーマに設定した生徒たちは、Dinglewell Infant School（小学校）に併設されている保育園のHucclecote Playgroupへ行きました。こちらの保育園には2歳半から4歳までの子供たちが通っており、到着するとDayleさんと Sarahさんが迎えてくれました。まずは園内を案内してくださり、子供たちがどのように過ごしているが説明してくれました。その後、一人の生徒が「子供たちはどのようなアクティビティが好きですか」「何時間保育園で過ごしますか」と尋ねました。泥んこキッチンや粘土などが人気と聞き、子供たちが好きな遊びは世界共通だという気づきを得ました。子供たちのおやつの中には必ず炭水化物と果物が出されるそうで、ヘルシーな食生活に気を付けていたり、子供たちへのケアを充実させているというお話を聞くことができました。



「Food（家庭料理／スープ／食文化）」をテーマに設定した5名の生徒は、English Teacherをしている料理好きのLiane先生と一緒に、スーパーマーケットで翌日作る料理の買い出しをしました。Liane先生は食材の名前や特徴だけでなく、量り売りの野菜の買い方や日本では珍しい食材を教えてくださいました。訪れたスーパーマーケットはWaitroseというイギリスの高級スーパーだったこともあり、Liane先生はお土産にもお勧めの品も教えてくださいました。翌日、購入した食材を使ってLiane先生のご自宅で料理をさせていただきます。



研修校に戻り、英語レッスンを受けた後は、「ドラマ」のレッスンに挑戦しました。「ドラマ」は日本人にはあまり馴染みがありませんが、イギリスでは小・中学校から授業の科目のひとつとなっています。レッスンをしてくださるのはKim先生。「このレッスンでは、大勢の前で話す際に必要となる表現力や集中力、一緒に課題に取り組むチーム力が養われます。」とのことでした。まずは円になって座り自己紹介をしました。その後、「Zip, Zap, Boing」「Wink, Wink, Murderer」など、リラックスするためのアクティビティを行いました。ゲームを楽しんでいるうちに、恥ずかしさからなかなか自分を表現できなかった生徒も、徐々に自由に演技ができるようになっていました。最後には、小さなグループに分かれ、映画のワンシーンを演じました。映画の代表的なシーンを登場人物の名前を出さないよう演じ、他のグループに何の映画か当ててもらいました。初めは大人しかった生徒も、意見を出して一緒に考えるうちに積極的に声が出て、発表も上手にできました。普段とは違った形のレッスンを、とても楽しんでいる様子でした。



英語で他国の人とコミュニケーションを取ることと「ドラマ」は似たようなところがあり、恥ずかしさや失敗を恐れて自分の殻に閉じこもってしまうのではなく、体全体や表情を使って伝えたいことを表現することによって、理解し合えることが沢山あったと思います。